

## 山武市学校のあり方検討委員会 第6回会議録

1 日 時	平成25年7月30日(水) 午後1時32分から午後3時29分
2 場 所	山武市役所 第4会議室
3 出席委員	14名
4 欠席委員	3名
5 協議事項	(1)市民等意向調査アンケート結果報告 (2)アンケート結果及び市内学校視察を踏まえた意見交換 (3)答申内容の骨子案について (4)その他
7 事務局説明者	教育長、教育総務課長、学校教育課長、学校教育課指導室長 外

### ○ 開 会

### ○ 委員長あいさつ

※協議前に委員長から前回の会議録確認を各委員に依頼し、8月6日までに訂正の連絡が無い場合は、市ホームページで公表することとなった。

※次回からの会議録は、事務局説明内容の概要を記載することとなった。

### ○ 協 議

#### (1) 市民等意向調査アンケート結果報告

事務局：資料に基づき、市民等意向調査アンケート結果報告についての説明（教育総務課長）  
説明概要については以下のとおり。

- 1 調査対象 一般市民、保護者、教職員等、児童生徒 8,075人
- 2 回収率 67.94% (5,486人)
- 3 設問項目 調査対象により8問から15問
- 4 主なアンケート集計結果

#### ○単純集計について

- “将来、山武市の子どもたちにどのような人間になってほしいか”という設問に対し、山武市の子どもたちには、「国際社会の中で活躍できる」、「技術を身につけて希望の職につく」、「社会の役に立つことができる」、「自分で新しい道を切り開くことができる」人になってもらいたいという意見が多かった。
- “子どもたちの学校教育や学校生活で重要と思うもの”の設問に対しては、「子ども一人ひとりに教員の目が行き届く」、「子どもたち同士が励まし合って成長する」、「施設設備が安全である」という意見が多かった。
- “現在の学校の児童生徒数についてどのように感じるか”という設問に対しては、全校、1学級あたりそれぞれについて保護者、児童生徒、教職員とも「ちょうど良い」という意見が一番多かった。
- “1学級あたりの望ましい児童生徒数”についての設問に対しては、小学校は「26人～30人」という意見が一番多かった。中学校についても同様に「26人～30人」が多く、小学校で37.9%、中学校で41.6%という結果であった。
- “1学年あたりの望ましい学級数”についての設問に対しては、小学校の場合は「2学級」、中学校の場合は「4学級」という意見が一番多かった。

- “適正な学校規模を維持するためにどのような対策が望ましいか”という設問に対しては、「通学区域を見直して統合する」、「通学区域を見直して統合しない」という意見が多く、「わからない」と回答した方も 28.8%いるが、「通学区域を見直して統合する」が 32.8%、「通学区域を見直して統合しない」が 22.5%、「対策の必要はない」は 11.9%となっている。統合に関しては 3 割程度、通学区域を見直すことに関しては 6 割程度の方が、何らかの検討をすべきだという問題意識を持っていることが窺える内容となっている。
- “学校の廃合や通学区域の検討の際に重要と思われるもの”の設問に対しては、保護者では「通学距離や通学手段の確保」、教職員では「教育に望ましい学級数や学校規模」という意見が一番多かった。

#### ○ クロス集計結果について

- “現在の学校の児童生徒数についてどのように感じるか”という設問では、小学校の児童数では「山武西小」、「豊岡小」の保護者、「鳴浜小」、「蓮沼小」、「緑海小」の児童が「もっと多い方が良い」との回答が多く、中学校の生徒数では、「蓮沼中」の保護者が「もっと多い方が良い」の回答が多く、その他の学校については「ちょうど良い」の回答が多かった。生徒の回答についても「ちょうど良い」の回答が多かった。
- “1 学級あたりの望ましい児童生徒数”についての設問では、小学校、中学校ともに「21 人～25 人」もしくは「26 人～30 人」が多く、学区ごとの差はあまりない状況だが、「豊岡小」学区の保護者は「11 人～20 人」が最も多い回答だった。
- “1 学年あたりの望ましい学級数”についての設問では、単純集計の結果とほぼ変わらず、小学校では 2、3 学級、中学校では 3、4 学級という回答が保護者、一般市民ともに学区に関わらず多かった。その理由として、「クラス替えで人間関係に変化を持たせ、友人がたくさんできる」、「多様な考えに触れ、社会性・協調性を身に付ける」という選択肢を選んだ方が多かった集計結果になっている。
- “適正な学校規模を維持するためにどのような対策が望ましいか”という設問では、全体を通して通学区域の見直し又は、統合の方向性を示す回答が多かったが、学区ごとによって多少考え方が違うことが表れている。

小学校では一般市民からの意見として、「通学区域を見直して、統合する」を選択した割合が高い学校区は、「成東小学校区」、「大富小学校区」、「緑海小学校区」、「日向小学校区」、「山武北小学校区」、「豊岡小学校区」、「大平小学校区」、「松尾小学校区」となっている。

「通学区域を見直して、統合はしない」を選択した割合が高い学校区は、「鳴浜小学校区」、「山武西小学校区」、「蓮沼小学校区」となっている。「わからない」と選択した割合が高い学校区は「南郷小学校区」であった。

「通学区域を見直して、統合する」と「通学区域を見直して、統合はしない」が同率であった学校区が「睦岡小学区」という結果であった。

統合に関しては、「通学区域を見直して、統合はしない」と「対策の必要はない」を合わせた割合と「通学区域を見直して、統合する」の割合で比較した場合、「通学区域を見直して、統合する」の割合が高い学校区は、「成東小学校区」、「緑海小学校区」、「日向小学校区」、「山武北小学校区」、「豊岡小学校区」、「大平小学校区」、「松尾小学校区」となっている。

「通学区域を見直して、統合する」の割合が低い学校区は、「南郷小学校区」、「鳴浜小学校区」、「睦岡小学校区」、「山武西小学校区」、「蓮沼小学校区」という結果であっ

た。また、「大富小学校区」では同率という結果であった。通学区域を見直すことに関しては、全ての小学校区で高い割合となっている。

保護者では、「通学区域を見直して、統合する」を選択した割合が高い学校は、「日向小」、「睦岡小」、「山武西小」、「蓮沼小」、「豊岡小」、「松尾小」となっている。

「わからない」の回答が多かった学校は、「成東小」、「南郷小」、「緑海小」、「鳴浜小」、「山武北小」、「大平小」となっている。

「通学区域を見直して、統合はしない」を選択した割合が高い学校は、「大富小」となっている。

統合に関しては、「通学区域を見直して、統合はしない」と「対策の必要はない」を合わせた割合と「通学区域を見直して、統合する」の割合で比較した場合、「通学区域を見直して、統合する」の割合が高い学校は、「日向小」、「山武北小」、「山武西小」、「松尾小」となっている。

「通学区域を見直して、統合する」の割合が低い学校は、「成東小」、「大富小」、「南郷小」、「緑海小」、「鳴浜小」、「睦岡小」、「蓮沼小」、「豊岡小」、「大平小」となっている。通学区域を見直すことに関しては、全ての小学校で高い割合となっている。

中学校では、「通学区域を見直して、統合する」を選択した割合が高い学校は、「山武南中」、「松尾中」となっている。「わからない」の回答が多かった学校は、「成東中」、「成東東中」、「山武中」。「通学区域を見直して、統合はしない」を選択した割合が高い学校は、「蓮沼中」となっている。

統合に関しては、「通学区域を見直して、統合はしない」と「対策の必要はない」を合わせた割合と「通学区域を見直して、統合する」の割合で比較した場合、「通学区域を見直して、統合する」の割合が若干高い学校が「山武中」。「通学区域を見直して、統合する」の割合が低い学校は、「成東中」、「成東東中」、「蓮沼中」。「通学区域を見直して、統合はしない」と「対策の必要はない」を合わせた割合と「通学区域を見直して、統合する」の割合が同率の学校は、「山武南中」、「松尾中」となっている。通学区域を見直すことに関しては、全ての中学校で高い割合となっている。

- “学校の廃合や通学区域の検討の際に重要と思われるもの”という設問では、一般市民が選択した上位2項目は、「教育に望ましい学級数や学校規模」と「児童生徒の通学距離や通学手段の確保」(※各校区で順番は異なる)が、「南郷小学校区」、「山武西小学校区」以外で多かった。南郷小学校区では、「教育に望ましい学級数や学校規模」、「今後の児童生徒の増減」が、山武西小学校区では、「児童生徒の通学距離や通学手段の確保」、「保護者の理解」が上位2項目であった。

保護者が選択した上位2項目は、「教育に望ましい学級数や学校規模」と「児童生徒の通学距離や通学手段の確保」をほぼ全校で選択されている。ただ、豊岡小学校については「児童生徒の通学距離や通学手段の確保」、「保護者の理解」を上位に選んでいる。

委員長：アンケート結果について説明いただいたが、私としては問題点がなかなかクリアになっていないと感じた。アンケート結果を総括して教育長はどんな印象をもっているのか伺いたい。

教育長：委員長から問題点がなかなかクリアになっていないと申されたことにまとめられると思う。なかなかこれをもってよしとはできない。尊重しなければならないが、十分に回答者がいろんなことを理解したり、考えたりしての回答にはなっていないのではと感じている。このアンケートの扱いは、今後このあり方検討員会、我々教育委員会でも慎重に扱っていかねばいけないという思いである。

委員長：事務局ではどう考えているのか。

事務局：アンケート結果を分析した中では、回答者の気持ちとしては複数のクラスは欲しい。しかし、学校の統合、学区の見直しに対して、それを達成するための手段を積極的に行っていく回答にはなっていないので、多少の矛盾を感じている。ただ、生徒の数は、現状よりは多い方がいいという意見が多いことは、それは正直な意見であると思っている。そこをどういった形で解決していくかについては、この結果からは少し読み取りづらいと思っている。

委員：アンケートの配布数が8,075人に対して回答が5,486人、回収率67.94%という中で、対象区分が一般市民、保護者、教職員、児童生徒となっているが、現状という視点でしかみられていないというか、そういった面での考え方がどうしても基本にあって、非常に捉えづらいものになったという印象がある。そういった意味では、例えば保護者の年齢的なこともあるかもしれないし、自分の子どもが5年後には小学校も中学校も卒業してしまうような方もいるだろうし、言ってみればおそらく、今の学区を変更するとか学校を統合するとかというと、出来れば統合して欲しくないということが前提にあるのではと思う。私のアンケート結果の印象では、なかなか非常に捉えづらいなと思っている。

委員長：私はこのアンケートの中で、問題や課題があぶりだされてくると期待していた訳だがその辺が薄かった。それが今委員から意見があったように、私たちがここで議論するのは現状ではなく、将来の視点、将来の学校をどうしたらよいかという視点に立って、様々なことを考えなければならない。その視点とアンケートの間にズレがあって、その辺のところクリアになっていなかったというところがあったと思う。

委員：回収率についてだが、一般市民が低いのは少し残念だが保護者はそれなりだと思う。ただ、現場に携わる教職員の回収率が20人出して5人回答がないということに対して、どう受けとめたらいいのかと思う。

教育長：ご指摘のとおりで非常に残念な思いである。ある教職関係の会議があったので苦言を述べてきたところである。

委員長：アンケートの結果については、様々な数値が示され事務局から説明があった訳だが、いづれにしても答申を出すうえでの一つの材料となるものなので、各委員には読み込んでいただきたい。

## (2) アンケート結果及び市内学校視察を踏まえた意見交換

事務局：資料に基づき、市内小中学校視察報告についての説明（教育総務課長）

説明概要については以下のとおり。

【開催期日】平成25年5月22日(水)

【視察先】山武西小、豊岡小、松尾中、蓮沼中、成東小(この順で視察を行った。)

【出席者】委員12名、事務局7名

【視察の要旨】

- 今後、学校のあり方を検討していくうえでの参考として、市内小中学校の児童生徒数が比較的多い学校、比較的少ない学校について、各学校の経営方針や児童生徒の学校生活の状況、校舎等の状況を視察した。
- 視察は1校あたり45分で、説明・質疑を20分、児童生徒の学校生活(授業等)の視察を25分程度で行った。
- 視察先以外の小中学校については、各視察先の学校への移動の際に、車中から学校の位置、学校区、外観等を確認した。

【各視察校の現状】

- 山武西小では、小規模校は教員の配置が少なく、その中でも本校は若手教員が多いため、みんなでカバーし対応している状況。生徒数が少なくなり集団登校の班が組めなくなっている状況。保護者の約6割がPTA役員で、6年間で約4回役員が回ってくる状況等について説明があった。
- 豊岡小では、高学年の児童が低学年の児童の面倒をよく見ている状況。競争意識は薄い面もあるが、一人一人が主役になれる場面が多くある。教員の指導の手が届きやすく、勉強が分からないけれどいいやと流してしまう子がいない。必ず分かるまで説明をし、本人たちも聞いてくるという関係になっている状況。中1ギャップの問題については、6年生の担任があらかじめ想定して指導している。学校環境の整備にPTAのみならず、地域ぐるみで協力してもらっている状況等の説明があった。
- 松尾中では、部活動で団体競技は年度により人数が足りない時がある。長欠生徒が約5%程度いる説明を受けた。これは他校と比較して決して多い数字ではないという説明もあったが、今現在約5%程度いるということであった。空き教室があり今後地域やPTAで活用することも検討している、中1ギャップについて、小学校による差は感じない、家庭環境の方の影響が大きく基本的な生活習慣が身につけていない生徒がいるとの説明があった。
- 蓮沼中では、津波避難用外階段を設置することになり、隣接の私立保育園も避難することになり、昨年度から訓練を実施している。土・日を挟んで休む生徒はいるが長欠生徒は現在いない。合唱祭を本年度から蓮沼小学校と合同開催する。部活動の未加入者が6人いるが民間のスポーツクラブに入っている。生徒のことを地域の人が良く知っている環境にあり学校外でも大人の目が光っていて、地域と学校と連携がよく取れているとの説明があった。
- 成東小では、現在の6年生は学年40人と2クラスぎりぎりの人数だが、その他の学年は今後も50から60人程度の入学者数がある予定。県から学力・学習状況検証事業の指定を受け、金・土・日に文章読解力を要する宿題を出している。児童に達成感を持たせるため、東金青年の家まで全校で遠足を行い完歩した。長欠児童、不登校の児童がいるが、本年度から登校している児童もいる。親が朝起きられないで子どもを学校に送り出せない家庭があるなど、そういう状況等の説明を受けた。

委員長：アンケート結果や5月22日に市内学校視察を行ったことについてご意見をいただきたい。

委員：アンケート結果で一般市民や保護者、生徒児童がこのように考えるのかということで、一つは自分の地区が統廃合の対象になっているかいないかで違うのではないかと気がした。統廃合の対象に全くない保護者や児童生徒、地域の方の回答と、統廃合の対象のなっていると感じた方の回答では少し違っている。適正な学校規模を維持するための対策に対する回答で、鳴浜小、山武西小、蓮沼小は通学区域を見直して統廃合しないという回答が多く、これは小さいところほど地域意識が強く、統廃合されるということに抵抗を感じているのではと思う。もう一つは小中学校の視察で、小規模校は小規模校として、豊岡小、蓮沼中を見せていただいたが、子どもたちは非常に落ち着いていて教育環境も良かった。小規模校で活動が上手いから統廃合というのは難しいのかなと思う。小規模校には小規模校の良さがあり、大規模校にも大規模校の良さがあるが、部活動の運営がどうこうくらいでは統廃合という訳にはいかない。そうすると統廃合という考え方がどこからくるか詰めていくと、やはり財政ではないかと思う。財政状況で現在の市の学校数を維持していくことが難しいということをも市民がどれだけ分かっているかで、アンケート結果がまた変わってくるのではない

か。統廃合をやるとなると本当に大きく、ここは小さいからこことここだけやろうということでは、そのところではどうしてだということになるので、出来ることであれば全部を見ながら全面的な考えで、通学区域など全て含めどこの地域でも関わってくる、自分の地域は関係ないという風になってしまうとやりづらくなる。この初めて実施したアンケートというのが、保護者や児童生徒の統廃合等々の今の実態ということだが、更にこれを基に、こんなことについて市民に知らしめて、できればもう一度アンケートを実施したらどのように変わるのか、それが大元になるのかなという風に感じた。皆が熟知したうえで今回のアンケート結果が出てきた訳ではないことを先程述べたが、これから10年先の市の人口もそうだが、市の財政状況についてもこれから啓発していった場合に、これからどう意識が変わっていくのかということが考えられた。

委員長：貴重な意見だと思う。委員からの発言にあった統廃合をどう理解するかという問題。これは議論をする論点が途方もなくあり、例えば、子どもたちをどう育てていくのかと考えていけば、適正規模は1クラス20人位がいいのではということになるが、財政状況を考えればどうなるのか。もっと別の視点では地域とはいったいどう考えるか。普通に考えていくと明治時代につくられた旧村単位、それがコミュニティとしての広さというか、皆が歩いて一つのテリトリーとして動いていくとてもいい規模であり、そこに小学校が一つずつある訳である。そんなことを考えるとどうやってこの問題を解決して、いい答申を出すかということは難しい問題である。様々なところから様々なところにスポットをあてて、それを一つずつ議論してクリアにしていく。大変な作業になるがこれから行わなければならない。

委員：事務局に質問だが、このアンケートの結果で今後の学校のあり方について議論を進めていくのか。

事務局：このアンケートの結果を参考にしながら、この検討委員会の中で教育委員会から諮問を受けた内容、少子化が進む中でどういうものが山武市として子どもの学ぶ環境なのかというところを、ここで審議いただいて形を作っていく。例えば小規模校であってもそれなりのメリットがあって、そう簡単に統合できないというご意見もあり、適正規模というものがこういうものだというのがあれば、それに向かってはどうしていけばいいか。そういう意見をいろいろ出していただいて、最終的にこの検討委員会ではどういう形が一番理想の姿なのかを出していただく。それを流れとすれば教育委員会に意見いただいて、教育委員会として最終的に山武市の学校のあり方をまとめ、それについて見直していかなければならないことがあれば、教育委員会の方で地域に出向いて説明していくことになると思う。

委員：適正規模とは人数を指しているのか。

事務局：適正規模は人数や学級数であり、今回のアンケートでは、1学年あたりの学級数と1学級あたりの人数というものが、どれくらいが適正だと思うかという設問で聞いている。

委員：何かをもって基準ではなく、単にこれくらいだったらいいなという思いくらいなのでは。

委員：このアンケートだけで今後進めて行くとのことだが、このアンケート調査の結果が一般市民、保護者の方が、現在の学校がどうなっていくかの危機感を捉えているのか疑問に思う。私はこのアンケートは漠然とアンケートをとっただけで、今後の学校がどうなっていくかの危機感が回答者にないと思う。このアンケートの結果で進めるには危険があると思うが、再度アンケートを行うのか伺いたい。

事務局：アンケートについては今回のみで、再度行うことは想定していない。

委員長：私たちもこの検討委員会の委員になって初めて危機感をもったと思う。例えば、町村合併の時、蓮沼で合併協議会から町村合併について説明を行ったが、住民の方から蓮沼の小学校と中学校はそのまま存続されるかと質問を受けた。それについては皆さんの意思である、皆さ

んが存続しようとずっと考えていただければ存続しますと答えた。それは揺るぎないことであると思う。自分たちの地域をどういう風にするかということについて、本格的に危機感をもって今取り組んでいるのは、この場にいる方だけで一般の人たちにはそこまでの危機感はおそくないだろうと思う。イメージとしてだが自分の地域の学校が無くなってしまいかも知れない、例えば蓮沼地域でいえば中学校はその議論になるのでは、という危機感を持っているところの人たちは、それなりのきちんとした回答がある。つまりどれだけ危機感を持っているかということがベースにあるかないかということだと思う。

委員：私は山武地区の地域審議会の会長をしているが、地域の方は私が行政の窓口という立場であると勘違いされていて、夜であろうと朝であろうとひっきりなしに電話がかかってくる。基幹バスの問題であるとか、このあり方検討委員会のアンケートを出したことによって、学校が統廃合するということに話が進んで行ってしまっている。山武西小は無くなるという結論まで行ってしまっている。アンケートを受けた人が近所の方にアンケートを受けたことで話に尾ひれがついて、山武西小が日向小と一緒になるらしいとか、元に戻るとか。豊岡小がなくなるといった話が出ている。合併してから山武市は広いようで狭い。こういったアンケートを出しただけでもこれだけの反応がある。委員が話した通りこれだけではとても判断できない。本当に真剣に学校のあり方を考え、このままでは自分の子どもの学校がなくなる。どうにかしてくれなくては困るという要求は教育委員会に行くので、本当に真剣に取り組んでいるPTA、保護者が何人いるか。アンケートで分からないと回答する人には非常に不満である。わからないはずがないと言いたい。こうしなければいけないといった結論があるはずである。今始まったばかりで、委員になり来年には答申を出さなければいけない。我々以上に教育委員会は当事者として大変であると思う。もっと煮詰めて委員会を開くのもそうだが、いろいろな面でPTA保護者の現在学校に通わせている当事者がどういう考えを持っているかをずっと19校に浸透させて、取材するということをしていきたい。学校の教育について無関心な方はかなりいる。少子化となると確かにそうで、山武市が本当に少子化になってきてこれだけの差がある。山武西小も豊岡小は比較してみると少人数だけれども、教育が行き届く学校。アメリカにいた際の学校では、日本でいえば小学校で20数人しかいない。この人数で1年生から6年生までがいる。本当に良く自分の子どものように教育をしていた。向うの親は非常に厳しくする。日本の親は優しすぎる。日本が戦争に負けてアメリカナイズされてきたことがあると思う。少人数制というしっかりとした教育をやって出来るということである。私も山武市に色々なところで携わっている。まだまだ捨てたものではない。人数が20数人から30人というのは理想である。理想なので文部科学省から何人でなければ学級が保てない。この数字は理想の数字であって、アンケートに出たからといってこっちの方が良いというような考え方をしている。

委員長：このアンケートの取扱いについては、今まで皆さんからいただいたご意見を含めて考えて、良く読み込んでみることも必要であると思うので、委員の皆さんにお願いしておきたい。

答申案の骨子案について、先進事例を参考にしながら事務局で説明をお願いする。

事務局：今、この流れで説明させていただいても、協議ができないと思うので説明いたしかねる。私どもでこの委員会にお願いしていることは、アンケートで一般市民の率直な意見を聞いてみようということであった。中には、考えがないという話しもあるかもしれないが、今現在の意見はこういう意見であるという事を示した。委員になられた皆様には、そういったことを踏まえてご自分の意見で、山武市の学校がどうなったらいいかをここで述べてもらう。それを市民から聞いてないからダメであると言われると先に進まないの、自分とすればこう考えるということをお住まいの周りだけではなく、山武市全体の学校とすればどうなればいいのかということのご意見を述べていただければと思う。

委員：アンケートをとった意味を考えていただければと思う。この会議でいろいろ出てくるが、最終的には答申を出す。その中には統廃合も出てくると思う。それには材料がなければいけない。市民の皆さんがどのように考えているかを改めてとっていただいた結果がこういう風に出た。それはそれで答申にして、後は我々の考えを付け加えて打ち出さなければいけない。5月22日の学校の視察をした結果、先生方の考えや子どもたちは、いまのままで差支えないという考えがある。ただ、委員長が言われたように将来性を考えた場合には、今ある学校は施設が整っているが10年後を考えた場合、維持管理が必ず出てくるということから財政的に市の負担がきつくなるのではないかと考えていた。送られてきた資料を見させていただいたが、その中で一般市民が学校の役割についてほとんど回答が無い。保護者の方が答えている。その中で一般市民は、避難所や防災施設としての役割をあまり感じていない。公の施設としてあまりみていない。ただ単に地域のシンボルとしてとらえている。私はこれについて、視察の際にも地域のシンボルですねという保護者もいらしたが、果たしてそういう風になるのかという印象を受けたので意見を述べさせていただいた。

委員長：学校の本来の意味は、地域のシンボルというそこに寄って立って、自分たちがそこを中心に生きているんだという、そういう考えになっているのだろうなと思ったら、このアンケートでは一般市民はそんなに思っていない。保護者のほうは思っている。

委員：校庭を自由に出入り出来て、常に休みの時は開いている。そういうことがなくなり、親しみがなくなってきてしまった。避難場所などそういうことだけになってしまった。避難場所でもなかなか入れない。

委員：検討委員会では、教育総務課長から話があったようにアンケートを参考資料として、これを土台として皆さんから意見をいただきたいという事であると思う。私は小美玉市を見せていただいた結果、自分としてはこうしたほうがいいのではないかと気持ちはわかってきたので次回発表させていただく。

教育長：先ほど教育総務課長から事務局のお願いをしたが、今、委員からあったように、ここで検討協議するのに何らかの材料が必要という事でアンケートを行った。非常に見えない部分があり、どのように参考になるかということもあるが、ある見方をすればこれは当然の結果なのかもしれない。それは回答者がわかっていない。考えていない。委員長が言われたように将来を見据えた回答になっていない。そういう風に視点、視野に問題があって、保守的とか現状維持というか、現状からしか物を考えられていないということが考えられる。そういう結果が出た。そのうえで、学識経験のある委員の皆様には自分はどう考えるかということで、出来るだけ全員に意見を伺いたい。どこまでまとまるかわからないが、選出された委員なので是非お願いしたい。先程アメリカの例が出たが、自分をもっと関わってれば真剣に考えるが、なかなか日本はそうになっていない。そこで国は、コミュニティスクールを進めている。こういう協議の結果の中で、こういう学校が1つでも2つでもあった方が良いであろうという視点、意見があったら良いのかという個人的な思いもある。もう一点、鳴浜小学校の日韓交流で21日から23日の3日間韓国を訪問してきた。数年前に訪れた時は1,200人、それからさらに増えて1,400人から1,500人になったと思うが、余り大きくなったという事で学校を分校した。今は、30人学級が実現されてどのクラスも23から24人で授業を行っていた。前と比べて子どもが良くなったという印象を受けた。

委員：韓国の人口は増えているのか。

教育長：韓国全体ではわからないが、鳴浜小が交流しているのは安山市というソウルに近いところである。非常に発展が続いている。

委員長：これまでの事も踏まえ皆様にご意見を伺いたい。

委員：いろいろの意見があり皆さんのおっしゃることはもっともであると思う。アンケートを見て思ったのが、一般の方や保護者の方の話は出るが、子どもたちがどう思っているのか。例えば、私は小学生や中学生によく会う。その子たちがどう思っているか。大人たちは、その時しか知らないからちょうどいいと言っているかもしれないが、子どもの意見は周りの人が言うよりものを得ていると思う。それは子どもが今の人数で遊んでいてちょうどいいと思っているのか、もう少しの方が良いと思っているのか。小学校から中学校に上がる時に蓮沼以外は人数が増える。そうするとこれだけ増えた方がいいのか。やっぱりもっといた方がいいとか少ない方がいいとかいろいろな考えになる。私の中では、一般の方や保護者の方の意見も大事だが、子どもの意見を重要にも考えてもいいのではないかと。実際に学校で生活するのは子どもである。

委員：今回初めて出席させていただいている。まず、皆さんの貴重な意見を伺うことが大切であると思っている。このアンケートをよく検討させていただき、それから十分に話し合いたい。

委員：アンケートはその時の意識でずいぶん変わる。知らせるべき実態を知らせてからまた、10年先を考えてくださいと言っただけでも変わる。意識が変わっていくと思う。事前に周知徹底ができれば、意識が変わると思っている。

委員：財政的問題それから教育的視点でのメリットとデメリット。それから形。学級数であるとかといった視点が基本的に必要ではないか。基本的に財政の問題があるのであれば、その視点も考えていかなければいけない。教育的効果や学級数といったいくつかのベースになる部分を考えていかなければいけないと思う。確かに統合しないという話もあるが、必要なことを確認し合って当事者的な立場で話合っていきたい。

委員：この会議をつくった意図を一般の方々にも知ってもらおう。そうすればいろんな意見が出てくると思う。これから学校にあがってくる子どもにもいろんな視点の考え方を重視していった方がいいと思う。

委員：予算ということでは夕張市の二の舞ということでは、行先はわかっている。だけど、予算だから何、という考えの方もたくさんいらっしゃるのではないかと。今回で3回目のお願いになるが、要綱の中に地区の協議会を立ち上げることができるかとある。今回で3回目。委員として意見を申し上げたい。理解を伴わなければということで、視察に行った小美玉市では先にパンフレットを投げかけて統合ありきで進んでいた。こちらは違うスタイル。小規模校の学校は一番真剣になる。山武市であればどこか。それは豊岡という流れできている。そういう真剣さがあってもいいのではないかと。答申内容の骨子案の章立てをもう少し考え、アンケートでやるべきことはやった。次は、何をやるべきか。これをみていくと統合ありきの中の話なので、もう少し何か具体的に一步一步という骨組みが章立てであった方がいいのではないかと。何をしたらいいのか、まず話さないといけな。2回言って3回目の話をしましたけれど。

委員長：地域協議会について事務局はどう考えているのか。

事務局：ここで皆さんにお願いしているのは、アンケートや今までの資料を含めて活用していただきこの場では、こう考えるというものを出示していただくという考えである。地域の話合いの場を設けるということを各地区でやっていけるだけの、委員からは豊岡地区でという話であると思う、豊岡だけで、次は他の地区もとなるとやっていけるかということが、スケジュールありきではないが可能かどうか。こちらでどういったやり方があるか。イメージがわからない。どういった姿が理想かという話し合いになると思う。先に地元の意見を聞いたうえでという話しか。

委員：意見を聞くべきではないか。要綱に載っていたので。載っていたということは、どこかがあ

るのではないか。

委員長：このアンケート結果が出た段階でどう判断したらいいかという思いがあった。これが出ても、この問題に明確にこの会として、どうしたらいいか及びつかないことがあった。統合する必要があるかどうかという意見があったと思うが、この意見をどう私たちが決心するかどうか。答申の中でどう書いていくのか。実際にはそれが出た段階で財政的にも教育委員会で考えていただき、実際に行動に移す時には教育委員会であると思う。その地域の人とじっくり話し合いをしなければ、行政として動かなくなっていくでしょうから。確か、委員会の中で統合を前提とはしていませんと何度か言っているはずであると思っている。それを皆さんで確認していただきたい。それで知恵を出していこうというのが私の考えである。私は委員長として、統合は前提としていない。統合ありきではない。

委員：この委員会に諮問されている。何項目かある。諮問された項目について、我々は委員会としてこれに答える。

事務局：諮問の内容としては、この委員会の中で次代を担う子どもたちへの教育効果を第一に考え、各学校の規模や地理的条件、また地域との関わりや地域コミュニティの活性化など幅広い見地から、子どもたちにとってより充実した教育環境が提供できるよう、本市小中学校の将来を展望したあり方について検討し、山武市教育委員会に提言していただきたく諮問するもの。

委員長：統合については、書いていない。統合については前提としない。その確認で納得していただけるか。

委員：小美玉市については、統合するところであった。逆に統廃合しなかったところは、どうなのか。我々もそれを知っておくべきなのかなと思う。統合したところの事例はたくさんあるが、全国の中で統廃合していないところがあるのか。統廃合の説明を地域に出向いて話し合いを行って統廃合に至らなかった。そういったことの事例が全国であるのか。

委員長：次回の委員会までに事務局で資料を揃えていただきたい。

委員：今の件で、今年委員になったが平成24年11月5日、第1回山武市学校のあり方検討委員会会議資料の5ページに検討委員会の具体的所掌事項ということで、山武市における学校適正規模のあり方、児童生徒数、学級数の将来推計の検証、学校規模に関する協議等の細かいことが山武市教育委員会から山武市学校のあり方検討委員会へ諮問されている。このことについて話し合い、答申を出してそれを議会等で承認いただくことになると思う。第1回に出された内容を再度確認していく必要があるのではないか。

委員：それをやるためにアンケートしたと私は考えている。投げかけられた項目について一つひとつやっていかなければいけない。話がまとまらなくなる。

委員長：それによってあと何回ということもあるので、論点整理をしていく。

委員：アンケートを見させていただき一般市民が少なかったが、教職員も回収率を見ると少ない。保護者に対するアンケートの項目について、園でもアンケートをしているが、本当に具体的に書かないと理解できなくて、回答できないという項目がある。今回を見させていただくと理解できなくてわからないという回答になったのではないか。アンケートが分かりづらい。もっとこの学校はこうだが、あなたの学校はこうである。どう思いますかという具体的な例を出したものを書いたほうが良かったのではないかと思った。統廃合について今はありきではないと思うが、こども園を立ち上げるときも住民の方がやはり全然しらなかった。これから進んでいくと思うが、学校のあり方も各地区で事務局が住民説明を行った方がよい。

委員：私も回答している。この会議でアンケートの形式について話し合ったと思う。実際に答えてみた時にクラスの人数はどれくらいが適正だと思いますか、学級はどれくらいが適切だと思いますかと聞かれたときに、幼稚園に勤めているので、幼稚園の大体これくらいという規模

は分かるが、小学校や中学校となった場合、言葉が悪いが大体この位という無責任に書いてしまったところもある。一般市民の方は、もっとわからない。保護者は子どもが通っていれば、何人ぐらいが良いとか実際に分かると思う。子どもがいない家庭では、大体の回答になり、見えてこないのではないかと感じた。山武地区だが日向小が日向と西小に分かれたりとか、睦岡小が北小に分かれるとか幼稚園が睦岡幼稚園と山武北幼稚園が一緒になったりとか統廃合や分れたということが、今までであった。例えば、西小でも統廃合が望ましいかといった時に、一般市民の方は通学区域を見直して統合しない方がいいということに対して保護者は統合した方がよい。どの辺の意見を重視して聞いていくのかということを感じた。

委員：統合するにしてもしないにしても両方のパターンがある。どっちも良いし、どっちも悪い。今の時点でその判断はできない。この委員会に出る前は考えを持っていたが、いろいろな意見を聞いていくなかでどちらが良いかわからない。住民がどう思っているのか、住民の意見を聞いてみようかという事で始まった。取り直したところで、詳しく説明し直したところで仕切れるということでもない。これでアンケートは必要ないと思う。ある時期において住民の説明会は必要なのかもしれないが、みんなの意見を聞いても絶対に意見はまとまらない。このメンバーは代表で来ているので、このメンバーで決めなければいけない。いい面と悪い面で必要な情報は事務局から情報をいただくばかりであったので、これからは意見交換をしていかなければいけない。その都度新しい発見があるので、よく考えていかなければいけないと思っている。

委員：進め方として、人口減少ということは否めない。児童数は確実に減っていく。財政面でも厳しいところがある。それを受けて学校の適正規模は、1学級40人。国の法令では現在40人学級。ただ千葉県の場合は、1,2年生が38人であれば2学級になるという特別措置がある。国でも35人学級あるいは30人学級、なるかどうかかわからないが、国の動向も影響してくると思うので、その情報も仕入れていかなければいけない。学級人数、学級数、通学距離はどれくらいの学校規模が適正と考える。そうすると学区再編はこうなるという案を出す。そうすると住民の方に説明をするのが筋なのかなど。今回のアンケートをやってみたが、もっと率直に統廃合についてどう思うかもっと強調してもよかったのかなど。本音のところはどう思っているのか聞き出せれば、資料として良かったと思う。絶対に反対であるという人も出てくるであろうし、やむを得ないという人もいるでしょうからそういったアンケートを狙った方がよかったのではないかと思う。

委員長：民主主義は難しい手続きを踏まなければいけない。多数決では決められない。多数決で決めることが正しい手法かどうかは疑問がある。この答申を出すにしても一番簡単なのは、多数決で一番手のあがったところで作りましょうということであれば不満が残る。そういうようなことを越えたところで議論をしなければいけない。統廃合についてどう思うか、各委員に聞いて議論をしようとは思っていない。際どいことについて難しい問題を含んでいると思う。

委員：中学校関係で一番白羽の矢が立っているのが蓮沼中ということで、私は初めて小規模校に着任したが1,400人ぐらいの学校、あるいは600人ぐらいの中規模校をずっと歩んで来たが、小規模校には小規模校のいいところがある。学校があって地域がある。そのコミュニティをどうしていくのか。学校が無くなると地域がバラバラになってしまう。新たにいろいろな行事をつくらなくてもなかなか大変なことではないかと思う。例えば、蓮沼中学校が半分松尾に行く。半分成東東に行く。そうすると蓮沼地区の子はいままでお世話になった蓮沼地区だから、かえって土地とか建物とかを守らなければいけないと思う子が残ると思う。それが無くなれば、蓮沼は産業も無いのでどんどん離れていってしまう。昔からの蓮沼が無くなってしまわないかと思う。いすみ地区もどんどん人数が減ってきている。山武市がどれくらいまで財政規模

でやっていけるのか。教育的には少人数、素晴らしい子どもたちと出会うことができた。どこに出しても恥ずかしくない生徒が非常に多くいる。大きい所が悪いとは言わないが、そういった生徒を我々が伸ばしていかなければいけないと思う。例えば、以前の芝山のように3つの小学校が1つになる。新しい学校をつくるという事であれば、ある程度納得するのではないか。人数が少なくなるから一緒にするというのは、保護者や地域の方々が合点しないのではないか。平成の大合併前の町村に1小1中だけは残しておいていただければと思う。

委員：個人的な意見では統廃合ありきではない。統廃合反対である。しかし、いろいろな事情が山積してきて、これが積み重なってこれはどうしようもないという所までできてしまったという事で統廃合という方向もあるであろう。一番大きな問題は、コミュニティである。私は山武市の中のコミュニティをもっと充実していかなければいけない。委員長が体験した東日本大震災は、全てコミュニティをもっと強くしなければいけない。それが全国的に提案されている。学校区単位で学校区という事で言うと13学区のコミュニティがある。これが崩壊してしまう。ここに大きな問題があるわけで、先ほどから皆さんから出ている意見の中の地域のコミュニティ、学区内の人達に理解をしてもらおう。説明を各地区でやったほうがいいというのは私も大賛成である。最終的にはしないといけない。こちらの意見が固まってからでも良いと思うが、4地区に時間を割いて週に2回やってもいい。理解していただいてあなたたちの地域がいままで交流の無かったところと一緒になるけれど、子どもたちのために教育を充実させるためにもそうしなければいけないという理解を求めるといことで是非、今後の方針の中に教育委員会が取り入れていっていただきたい。

委員：この委員会に諮問事項があり、学校の規模や通学距離の見直しが考えられるでしょうし、それぞれについてメリット、デメリットがある。一つひとつ答えを書いて、最終的には委員長が言われるように結論は無いという事なので、そのように答申を出したい。

委員長：委員の皆様から意見をいただきありがとうございます。私とすれば、次回からそれぞれの論点について協議いただく。そのような方向で進んでいきたい。

(3) 答申内容の骨子案について

※今回の会議では協議せず。

(4) その他

※事務局から次回の会議は8月下旬を予定している旨を報告。

○ 閉会